

今 新田川では

水境堤 (みずさかいつつみ)



ここは、飯館の主要地方道12原町・川俣線で、あと300mくらいで川俣との境です。福島方面に向かう時に、何気なく見ている静かな水境堤ですね。源流はすぐ近く！！水境堤の大きさは目測で、幅・奥行ともに70mくらい？

長雨が上がった8月19日のお昼前に訪ねてみました。久々の青空が水面にキラキラと映っています。最初に迎えてくれたのは、体長50cm程の「鯉」と思われる魚でした。ゆったりと泳いでいます。この主かな？他にも数匹泳いでいました。

盛んに行きかう車の音をかき消すように、せみ時雨と野鳥のさえずりが、森の中の堤をにぎやかに奏でています。

ドライブの途中で目を和ませてくれたのは、道々に咲いている「いたてオリンピック」の真っ赤な花です。あの震災からの復興の願いが込められています。



白い睡蓮が3株
かわいく咲いていました。

8～10月はダニアレルギー対策を！



ダニ刺されの被害が多いのは、気温も湿度も高くダニが多い7～9月頃。一方、ダニアレルギーが多いのは、気温も湿度も下がって来る8～10月頃。これは、アレルギーを引き起こすのは生きていたダニそのものではなくダニの死骸・ふん・抜け殻なので、ダニが死ぬ秋頃から症状が出てくるためです。くしゃみ、鼻水が止まらない、目もかゆい…つらいですね。対策として、まずは湿気やホコリ、死んで粉々になったダニを外に出すために換気をする。そしてダニが繁殖しやすい寝具などは、洗濯乾燥機や布団乾燥機をかけた上で、アレルギーとなる死骸を取り除くために掃除機で吸うこと！（これが大事）天日干しもいいのですが、ダニが死滅するのは50℃以上で20分という条件があります。暑さが和らいでくるとダニは死にません。コインランドリー等の乾燥機は30分、布団乾燥機は60℃で30分、またはダニ退治モード。その後、くどいようですが掃除機や布団クリーナーをかける。ここまでがダニ退治です！



パイナップル観察日記 (最終回)

を外に出してから数日過ぎて、お日様のもとに出しました。すると緑色がみるみる黄色味を帯びてきます。

おいしそうな を見ていると、カラスに見つげられたら大変・・・と心配です。明日は台風8号が来るという7月27日、台風に倒されては一大事。記念の収穫です。切り取った瞬間、切り口からはとっても甘いおいしそうな香りがしました。

一時間くらい冷やして、頭部分を切って、固い皮をむいたら。あらあらあらこれだけ？事務所のメンバーだけで頂きました。(ごめんなさい)



一同に「うまい！！」「ほんとうにうまい！！」完熟をいただいたのは初めてで「感動」です。

数日後実を切り取られたの根本は切り口がしぼんでしまってなんだか悲しそうな姿です。お疲れさまでした。

《 社員紹介コーナー 》
大工の憲太朗くん

入社して早や6年目…佐藤建業ではベテランの域に入ってきました。毎日現場で頑張ってくれています。真面目で、丁寧な仕上げを心がけている大工さんです。これからも経験を積んでいくので、皆様どうぞよろしくお願い致します_(._)_



8月の暑い作業場だけど元気に木材を加工するぜい！(◇)ゞ



《大工さんのアイテム》

鉋(かんな)



刃を調整するところから始まり、上手に削るのもメンテナンスするのも全て熟練の技が必要なんです…(*´3`)



和鉋

よく見る日本の鉋



洋鉋

なんかカッコイイ…

一口に『鉋』と言っても、その形や大きさは多岐に渡り、用途によって使い分けられます。私たちが一般的にイメージする、台が平らな鉋は正式には『平鉋』という分類になります。他にも曲面を削る『反り台鉋』があったり、凹凸、溝、角など対応する場所は様々です。尚、日本の鉋は引いて使いますが、西洋など海外では押して使うようになっています。

(日本でも江戸中期頃までは押して使うタイプの鉋だったようです。) 前回ご紹介した鋸(のこぎり)も鉋も日本と西洋では用いる方向が逆…というのは面白いですね(*´艸`)

※ちなみに、電動式の鉋はどれも押して使うようになっています。



電気鉋



反り台鉋

お家のリフォームするなら秋ですよ～(∩o∩) /



リフォーム工事は、窓やドアを開けて作業を行う場合が多いので暑さが和らぎ、そして寒くなる前のこれからの時期に行うのがベストです。特に、生活に欠かせない水回り(キッチン・お風呂)のリフォームや外壁や屋根の塗装がオススメです。

断熱効果のあるリフォーム(窓ガラスを複層ガラスに交換など)も寒くなってくる前に行うと暖かくエコにもなります(^^)

リフォームのご相談は佐藤建業まで、お電話(0244-22-7619)

またはLINEにてお気軽にお問い合わせください(*^-^*)



LINE QRコード→



中秋の名月

暑～い夏が過ぎると中秋の名月ですね。旧暦8月15日の夜に見える月のことです。現在の暦ですと、9～10月頃にあたります。今年は9月21日です。



月を見上げた時、ついついうさぎの姿を探してませんか?そこで、今昔物語にも載っている有名なお話をどうぞ

「昔、山奥に仲の良いうさぎ、さる、きつねが暮らしていました。そして三匹はいつも、「ぼくらがいつも助け合っているように、誰か困った人がいたら、助けてあげようね。」と話をしていたのです。

それをご覧になった天の神様が、三匹の本当の心を知りたく、みすぼらしい老人の姿に身を変えて彼らの前に現れました。そして、「私はおなかがすいています。何か食べ物をください。」と、三匹に言いました。

すると、「それはお安いご用です。」と、さるは得意な木登りで林から木の実を採ってきました。きつねは川から魚を捕ってくるのが得意でしたので、魚を老人に差し出しました。けれどもうさぎは、木登りも魚捕りも出来ません。あちこち跳び回って食べ物を探しましたが、とうとう何も見つけることができませんでした。なのでうさぎは、「どうか、ぼくを食べてください。」と言うと、燃え盛る焚き火の中に飛び込んでしまったのです。



この月は「一年で最も美しい月」と言われているそうです。

それは

- ・月の高さが見上げるのにちょうどいいこと
- ・秋は空気が澄み渡り、月が鮮やかに見えること等だそうです。

3人は、あわてて火を消しましたが、うさぎは死んでしまいました。

老人は、元の天の神様の姿に戻ると、涙を流して言いました。「おまえたちは、みんな思いやりがある。でも、うさぎは特別心が優しいなあ。」そして、うさぎを抱きかかえると、空に昇っていき、月に葬ってあげたのです。

これが一般的な終わり方です。

しかし、さらに続きます。

火に飛び込み、死んでしまったうさぎを抱きかかえ、神様は言いました。

うさぎよ、お前は自分が出来る範囲で助けてあげれば良かったのだ。こうして死んでしまったら、もう誰にも良いことをしてあげられないのだぞ。」

「はい、神様。ごめんなさい。」

そこで神様はうさぎの火傷を治してあげました。

しかし地上界での命は戻りません。そこで神様はうさぎを月に上げてあげ、うさぎは月で自分のできるお餅をついて、年の初めに地上界へ配るのでした。

・・・(T_T) 悲しいなあ・・・